

平成30年度

研究紀要

学校教育目標

自ら学び 豊かに関わり合い たくましく生きる児童の育成

研究主題

「郷土愛を育てるための
日々の教育活動における佐倉学の生かし方」

佐倉市立志津小学校

仮説の検証

仮説1 佐倉の人物・歴史・自然・文化に関する内容を適切に取り入れれば、郷土に対する理解や思いが深まるだろう。

手立て 《授業での取り組み》 ① 単元計画の工夫 ② 学ぶべき人物の選定

仮説2 視覚的に捉えやすい板書・資料提示を行うことや交流活動を取り入れることで、郷土に対する学びが深まるだろう。

手立て 《授業での取り組み》 ① 板書の工夫 ② 交流活動の工夫
《全校での取り組み》 ① 今月の佐倉学 ② 佐倉学コーナー

各学年の実践 社会・道徳

第5学年「わたしたちの生活と工業生産」

～佐倉市出身の西村勝三の靴作りを通して～（社会）

○北陸地方の工業・福井県鯖江市のめがねと、大田区のものづくりと、佐倉市の靴作りとの共通点を比較した。

→学習を身近に感じさせ、佐倉市にも全国的に誇れるものがあるということを知り、郷土に対する理解や思いが深まった。

○佐倉市の靴作りについて、自分たちの調べたことを班で交流し、他者の見方や考え方を取り入れ、自分の考えを修正しながら高めた。

→グループ交流終了後、全体で交流を行い、他の班が調べた知識を取り入れ、佐倉に対する理解がさらに深まった。

第6学年「世界に歩み出した日本」

～佐倉市年表を作ろう～（社会）

○各時代の歴史の学習を行った後に、「日本の主な出来事」と「佐倉市の主な出来事」として年表にまとめた。

→日本と佐倉市の歴史的事象の関連や違いを比較することができ、郷土に対する理解と愛着を深めることができた。

○「佐倉市グッとポイント」を書き、書いたものをグループで交流し、共感したことなどを「友達のグッとポイント」としてまとめた。

→佐倉市に対する考えの幅を広げることに繋がった。

第1学年「がんばる心」

～津田梅子～（道徳）

○7才の自分と同じ年齢の時の津田梅子の考えや行動を知り、「自分もがんばろう」という自我関与ができるようにした。

→梅子と同じように目標に向かって、努力している「自分の良さ」を認めるなど、自らを振り返って成長を実感することもできた。

○梅子の生き方や考え方を理解させるため、視覚的にも捉えやすいように紙芝居にしたり、板書や資料を梅子の成長に合わせて年代別に掲示したりした。

→行動を絵として分かりやすく表現したので、親しみをもち、自分自身に置き換えて考えることができた。

第2学年「きぼうの町、佐倉」

～堀田正睦～（道徳）

○話の冒頭と最後を提示した。黒板の左右で、昔と今を並べた。

→どうして変化が起きたのかと、興味をもって聞くことができた。昔と今を並べることで、視覚的にも分かりやすく、どちらも佐倉や人民のことを考えていることが分かった。

○子どもたちの身近なところから「堀田正睦」のように佐倉のこと、みんなのことを考えている人を探した。

→まわりの人のことを考えることは、昔も今も、未来でも大切であると気付くことができた。

第4学年「強い意志」

～佐藤泰然～（道徳）

○社会科の学習を通して、事前に人物理解に努めた。

→本時の文章理解がスムーズになり、郷土への理解や関心を高めることができた。

○天然痘の写真などを用いて視覚的にも天然痘の悲惨さや種痘の大変さを伝えていった。また、グループワークを取り入れ、種痘をすすめる泰然と反対する民衆の役をグループで演じ、反対された泰然の心情に迫るようにした。

→種痘を推し進めた泰然の強い意志に気付くことができた。

第3学年「郷土愛」

～「わたしたちの街 ユーカリが丘」～（道徳）

○総合的な学習の時間「みんな笑顔で輝くまち、志津」の中で、ユーカリが丘の「街ギャラリー」の見学に行った。

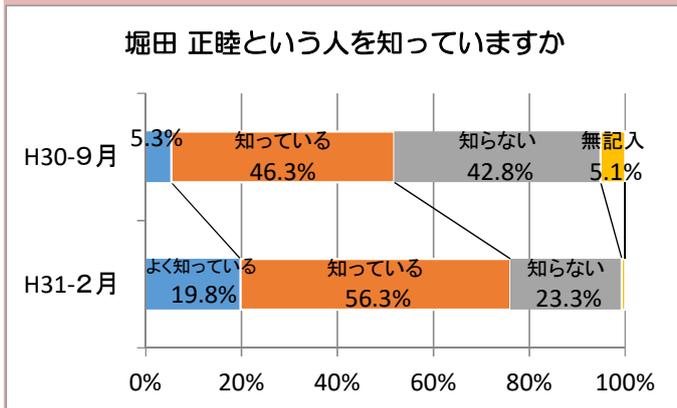
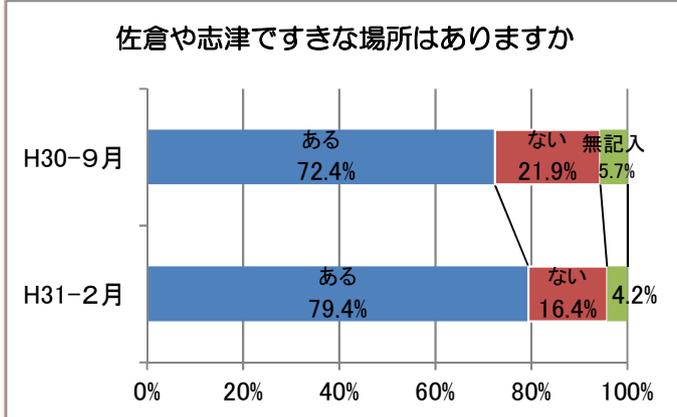
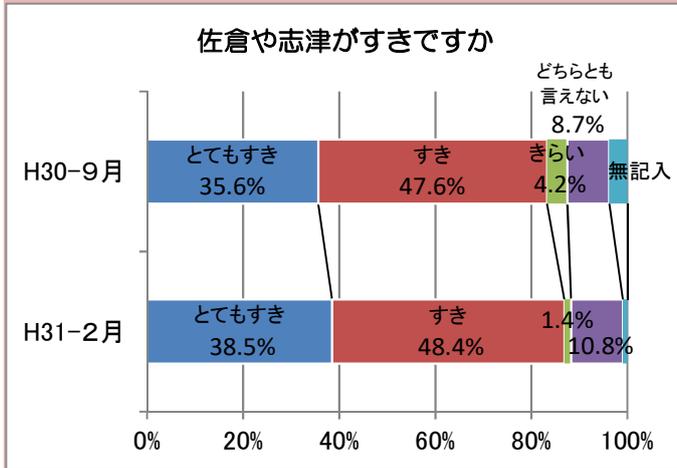
→ユーカリが丘という街を俯瞰的に見る機会となり、新たな視点からユーカリが丘の魅力に気付くことができた。

○緑の葉を児童の意見、白の花を保護者の意見、茶色の幹を開発者の思いというように3つに色分けし、ユーカリの木をイメージした板書にした。

→4つの観点の木に分けて貼り、児童が大きなまとまりでユーカリが丘の魅力をつめる助けになった。

成果と課題

アンケート結果と考察



成果

《仮説1》

- ・佐倉学をどのあたりで取り入れると効果的であるかを考えて単元計画を立てることにより、佐倉と日本のつながりを意識することができた。(社会)
- ・発達段階や学習内容により、学ぶべき人物の選定をしたことにより、児童がスムーズに学習に取り組むことができた。

《仮説2》

- ・全校児童が見ることのできる「佐倉学コーナー」を作り、佐倉に縁のある人物や学習内容の掲示をすることにより、佐倉を郷土として身近に感じることができた。
- ・教材の特性に合った板書や交流活動を取り入れることにより、思考をゆさぶったり、郷土に対する学びを深めたりすることができた。

課題

《仮説1》

- ・児童の理解や思いを深めるには、学習する人物を、推奨されている人物以上に広げていく必要がある。
- ・自分との関わりで考え、友達の見聞き、深める活動を取り入れていく。

《仮説2》

- ・思考の流れを振り返ることのできる板書・テーマを明確にした資料提示が効果的である。
- ・学習の直後だけでなく、常時見られる資料コーナーも必要だった。また、資料に興味をひくための教師の投げ掛けがもっと必要である。
- ・交流活動では、主体的に話し合うための役割分担や多様な意見が出るようにさらに工夫すべきである。